



p4cで考え深めた



無限な
モジャモジャ
だなあ



「友だち」「友情」 みんなで話し合う

糸でできたモジャモジャの玉です。コミュニケーションボールといって、これを持った人だけ話すことができ、ほかの人は聞き役になります。話し合いのルールを作り、「みんながちゃんと聞いてくれる」「何を話しても否定(ひてい)されない」という、安心して話せる場をつくることを、p4cではとても大切にしています。



いるかな
意見がだね
わんわん
わんわん
わんわん



問の切り口を変えて、議論(ぎろん)を深めていきます。
「友だちになりたいのは、自分と同じタイプか、ちがうタイプか」との問いには、たくさん手が挙がり、ボールがどんどん回りました。話し合いが進む中で、「両方のタイプと友だちになりたい。ちがうタイプの人と遊んだり学んだりしたことを、同じタイプの人に教えられるから」と、新たな視点(してん)からの意見も飛び出しました。

森美優さん(10)は「p4cは、みんなの顔がちゃんと見えて、考えを深めることができるのが良いところだ」と話し、佐藤空君(9)は「今日は参加者が多くて、いろいろな考えを聞くことができました」と笑顔でふり返りました。

白 白石一小は2014年度からp4cを始めました。担当(たんと)の八巻淳先生は「子どもたちは自ら考え、意見を発表し、友だちの考えを聞くことが楽しく感じられるようになりました。子どもの新たな魅力(みりょく)を見いだすきっかけにもなっています」と手ごたえを感じています。

白石市教委は今年度から、p4cを学校教育の重点事項(じこう)の一つに定め、市内の全16小中学校で取り進むようになりまし。仙台市の小中学校でも導入(どうにゅう)する学校がふえていくそうですよ。

ハ 八王子州から来日したp4cの専門家(せんもんか)も参加し、児童35人と先生ら11人の大きな輪(わ)になって、話し合いを始めました。意見がなかなか出ない時もありましたが、先生が「じゃあ、みんなと友だちになることはできる?」など、質問(もん)がけが、カラフルな毛糸(けいと)でできたモジャモジャの玉(たま)をつくることを、p4cではとても大切にしています。

「どうして全員と友情(ゆうじょう)を作れないんだろ?」。簡単(かんたん)に答え(こた)が出ない問題(もんだい)について、子どもたちが円座(えんざ)になり、話し合いながら考えを深める授業(じゆう)が6月、白石市白石一小(小関俊昭校長、児童380人)4年2組(よんねんぐ)で行われました。

授業(じゆう)では、アメリカで開発(かいはつ)された「p4c(ピーフォーシー)=子どものための哲学(てつがく)=」とよばれる対話(たいわ)の方法(はうほう)を使(つか)っています。テーマ(てま)は子どもたちが自ら決めて、「なぜ」「どうして」と考えをめぐらせながら、意見(いけん)を出し合(あ)います。

対話(たいわ)に欠かせないのが、カラフルな毛糸(けいと)でできたモジャモジャの玉(たま)をつくることを、p4cではとても大切にしています。